

ニュース 玉手箱



最優秀賞「ありがとう」を発表する奥山琉花さん(大石田南小)

「ありがとう」の気持ち素直に

地 域の子どもたちの健やかな成長を見守ろうと、青少年健全育成町民集会在2月16日(日)に虹のプラザ多目的ホールで開かれました。これは大石田町青少年育成町民会議(五十嵐智志会長)が毎年開いているものです。

アトラクションとして、大石田中学校1年生が授業で作成に取り組んできた町のPR動画と「大石田の課題解決プラン」の発表が行われました。その後、いじめ防止標語優秀作品の表彰と町内の小学5年生が家族への感謝の気持ちをテーマに書いたエッセイの優秀作品の発表・表彰が行われ、児童による優秀作の披露に会場からあたたかい拍手が送られていました。



笑いの体操で心も元気に

寒 くて家に閉じこもりがちになる冬を元気に過ごすため、笑いとヨガの呼吸法を組み合わせたエクササイズ「笑いヨガ」教室が2月20日(木)に保健センターで行われました。

教室では、笑いヨガを広める活動を行っている理学療法士の三瀧英樹さん(田沢上)が、笑うことで免疫機能が活性化することや、気分を前向きにするホルモンが分泌されて心の健康にもよい効果があることを説明し、参加した約30人とともに「ホホホ、ハハハ」の笑い声に、電話や家事などの日常生活の動作を組み合わせた笑いヨガを実践。会場中に元気な笑い声が響きました。



おいしいそば味わって

町 内のそば店14店舗で組織する大石田そば街道振興会(芳賀清会長)の会員が2月19日(水)に水明苑を訪れ、利用者と職員に打ちたて・ゆでたてのそばを振舞いました。

これは振興会が美味しいそばを味わってもらおうとも毎年行っているもので、会員らは利用者が集まる中、そば打ちを実演しました。また、利用者のそば打ちを体験もあり、会員らに「いい手つきだ」などと励まされながら「こね、のし、きり」の作業を行い、作業が終わると見守っていた利用者や職員から拍手が送られていました。その後、茹でたてのそばが振舞われ、利用者らが美味しいそばを味わっていました。



いきいき元気に福祉のつどい

い きいき大石田福祉のつどいが2月23日(日)に虹のプラザ多目的ホールで行われました。開会行事では老人クラブ活動に尽力された方々への町社会福祉協議会会長表彰が行われました。

その後「いきいき大石田芸能演芸会」が行われて、大正琴や合唱、踊りや振り込め詐欺防止の寸劇など、各地区老人クラブや地域包括支援センターの職員などが趣向を凝らした出し物を次々に披露しました。さらにアトラクションとして大石田唱和会、エコミュージック、大石田町民謡研究会による歌と踊りのステージが行われ、会場を盛り上げていました。



公共図書館の役割を考える

図 書館のこれからを考える講演会が2月25日(火)に虹のプラザ中会議室で開催され立命館大学教授の常世田良さんが、図書館の役割について語りました。これは大石田町子ども読書活動推進委員会が開いたもので、図書館利用者など約50人が参加しました。

常世田さんは、日本では欧米と違って働き盛りの世代が図書館を利用しないことを紹介し、「日本人はなぜ図書館を利用しなくてもよかったのか」という切り口から日本社会の成り立ちを紐解きました。そのうえで「まずは子どもを育てる大人が変わる必要がある」として、社会の変化に伴って多様な知識を提供する図書館の重要性が高まっていると訴えました。



町の農業を話し合う

農 業振興について話し合う農事座談会が2月15日(土)、16日(日)に虹のプラザ中会議室で開催され、農業者や集荷団体、行政の関係者約100人が参加して今年の米の作付け方針や園芸作物の振興について意見を交わしました。

国による米の生産数量目標配分が廃止されて3年目となる今年の座談会では、それぞれの立場から積極的な意見が出され、参加者全体で昨年に引き続き需要に応じたコメ生産に取り組むことの重要性を再確認しました。また、園芸作物の分野では、特産のすいかをはじめとした高収益作物の生産振興について活発な議論が交わされていました。

